



序言

千葉支部長 英大11 [渡辺 節子](#)

庭にはどくだみの白十字の可憐な花と紫陽花が競い合って咲いています。
みなさんはお元気でしょうか。

昨年の今頃は「冊子の会報最終号Andante11号1500部」と「電子化した最初の会報Andante11号」プラス「1480人分のメーリングリスト」を並行して作っておりました。

今年からは「電子化した会報」のみをメーリングリストでお届けいたします。

千葉支部の幹事は任期2年で地区を回る交代制です。現在は市川地区会員3名が幹事をしております。

会報の電子化に伴い、幹事業務も格段に楽になりました。

そこで地域を問わずに次期(2024.4.1-2026.3.31)に幹事をしてくださる方を募集いたします。

応募をお待ちします。

千葉支部は全33支部中、飛び抜けて会員数が多く、同窓会から受領する会員1人当たり150円の補助金総額も多額です。今まで冊子会報作成に掛かった経費一回20数万円は今年度から不要になります。

『特別事業助成金10万円』も応募・審査を経て頂けることもあります。

これらを有効に活用するために下記を心がけています。

- 1) SDGsを徹底する。paperless を実行しています。
- 2) 千葉支部だけでなく全同窓生、一般社会に向けたイベントを心懸けます。
- 3) 毎年外部団体にわずかでも寄付を続けたいと思います。

今期は『カンディンスキー氏の演奏とロシアの鐘のお話』を企画いたしました。

みなさんに喜んで頂けると確信します。一般の方々のご参加もお待ちいたします。

終演後に千葉支部総会を開きます。詳細は支部会員にMLでお知らせいたします。

<目次>

- P1. 目次・支部長序言
- P2. ピアノリサイタルのお知らせ・プログラム
- P3. 「『ロシアの鐘の音』リサイタルの前に」ミハイル・カンディンスキー
- P4. 「『女子大学への逆風』を考える」高橋裕子
「まだ間に合う！MCI予防！」楠山栄子
- P5. 「トルコを書いて」新藤悦子
- P6. 「コロナ禍前後で変わったこと・変わらなかったこと」種村千明
- P7. 「内房海岸とコートダジュールの無人駅」渡辺節子
- P8. 2022年度総会・ピアノと馬頭琴とピアノの会の感想
山下順子・鈴木眞理
- P9. 「『津田梅子』感想」大庭洋子・2022年度会計報告
- P10. 「千葉市美術館紹介」林眞佐子・地元の文化財紹介
- P11. (資料)2022年度活動報告

ミハイル・カンディンスキー ピアノリサイタルと ロシアの鐘のお話

主催：津田塾大学同窓会千葉支部 津田塾大学同窓会助成事業

講話と演奏：[ミハイル・カンディンスキー](#)さん

日時：2023年10月7日（土）14：00～16：00 ※13:30 開場

場所：[市川文化会館 小ホール](#) ([map](#)) ※自由席

参加費：津田塾関係者(同窓生・学生・教職員) 3,000円

一般 4,000円 ※申込締切：10月5日(木)

このような時だからこそ益々、日本に居るロシア人ピアニストとして私は、ロシア文化を大切にしたい、祈りの気持ちを込めてロシア楽曲を弾いています。

Mikhail Kandinsky

千葉支部では昨年6月にZoom講演会でウクライナの現場の声を届けました。戦争が長引き世界が分断される中、ロシアの文化や音楽を通して、平和を願う気持ちを感じていただければ幸いです。



[お申し込みはこちら](#)

問い合わせ先：tsudaogchiba@gmail.com

プログラム

14:00～14:20 ロシアの文化についてお話

14:20～15:50 演奏

曲目

ベートーヴェン

ピアノソナタ第7番二長調 op.10-3

メトネル

おとぎ話 "鐘のうた" op.20-2

グリーグ

抒情小品集 op.54より

1. 羊飼いの少年
2. 農民の行進
3. トロルの行進
4. 夜想曲
5. スケルツォ
6. 鐘の音

ラフマニノフ

6つの音の絵 op.33

ベートーヴェンの明るい二長調ソナタとロシア音楽の共通点は、ロシア音楽に大切な「道のイメージ」が第1楽章に顕れ、道は人生の進路のよう。精神的エネルギーが感じられます。

メトネルとラフマニノフは親友で、お互いに尊敬しあいました。今回は鐘に因んだ『スカースカ』を。（おとぎ話や短編・小説の意）

そして今年にはラフマニノフ生誕150年、グリーグの生誕180年でもあり、ノルウェーのグリーグの小品集を弾きます。短い中に広がる豊かなイメージは日本の俳句のようで、日本の方々にとっても良いと思いますがいかがでしょうか？

グリーグの書いた『鐘の音』は、ロシアの鐘よりシンプルで透明感があります。複数の和音が混ざる味わいはロシアと似ており、ぜひ聴き比べてください。

ラフマニノフの『音の絵』op.33-3は、神秘的な暗い吹雪のようです。私は雪がとても懐かしく、心暖かく感じ、毎春日本で桜を見ると、雪を思い出すのです。

Mikhail Kandinsky

終演後、千葉支部総会を行います。詳細は会員宛てに9月に別途お知らせします。

千葉支部は収益を特定非営利活動法人 国連UNHCR協会（国連難民高等弁務官事務所）に寄付いたしております。国や民族を指定せず、世界の難民のために役立てていただきます。

ロシアの自然

音楽は、それが生まれ出た母国の自然や風景と切り離すことはできません。

ロシアの自然は山がなく、殆どが一面の平野です。そこに人々の憧れる川が、森や平原を迂回してどこまでも流れてゆきます。それがロシア人の心の風景であり、ラフマニノフの広い呼吸のメロディ、大地のように広い和音は、ここから表れ出ています。



聖ユーティミウス救世主修道院

ロシアの鐘

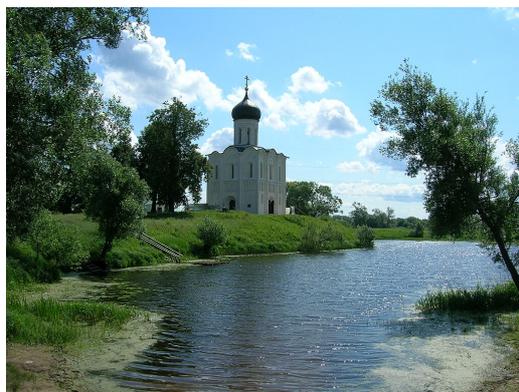
もう一つ、ロシア音楽の生命として大切な特徴は鐘です。鐘は人の様にさえ思われてきました。昔ながらの鐘の音が、ロシア音楽芸術の源です。

鐘の役割は様々なものがあり、例えば祭りや喜びの鐘の音、結婚の鐘の音（今回弾くラフマニノフの『音の絵』 op.33-4の様に）、または悲劇的な鐘の音、吊いの鐘の音、そして警鐘を鳴らす鐘の音（今回弾くメトネルの『おとぎ話』 op.20-2の様に）。警鐘を鳴らすのは、火事などは勿論、タタールや隣国の兵隊が入って来た時などもそうで、今回メトネルの曲で鐘が危険や恐れを告げ、人々の集まる様子も感じられます。

ロシア正教の鐘と歌

教会の隣に立つ高い鐘楼で、特別技術をもつ者が一人で大小複数の鐘を長くも短くも操り鳴らします。祈祷の開始や祈祷中の大切な時に鳴らし、神聖な精神を垂れ広めた鐘の音。正教会の典礼では、器楽は使われず、人声の歌のみで、そこに唯一あるのが鐘でした。声楽曲もラフマニノフの傑作『晩禱』 op.37を筆頭に、鐘の響きの影響は甚大です。

そして鐘と歌は、ピアノやどの器楽曲にも、ある時ははっきりと、ある時は気づかないくらい細部まで、浸透しました。街の教会によりそれぞれ独自の音色やメロディ、リズムをもった鐘が、今日も鳴っています。



POKROVA-NA-NERLI
ポクロヴァ・ナ・ネルリ教会

[お申し込みはこちら](#)

問い合わせ先：tsudaogchiba@gmail.com

皆様にとっての「女子大学効果」とは？

皆様は津田塾大学で学ばれたことを、どのように評価されていますか？ 私は自身の大学の学部での4年間を、人生の方向を決定し、基盤をつくるような、とても充実した時間であったと振り返っています。「女子大学効果」とでも言うべき貴重な時間であったと考えています。

正確に数えたわけではありませんが、総単位数の7割くらいを女性教員から取得したと思います。20代から60代までの女性教員が様々なクラスで教えて下さいました。博士論文を執筆中の20代のフランス語の先生。学齢前のお子様を育てながら、キャリアとの両立に奮闘されていた30代のアメリカ史の先生。多様なライフスタイルの40～50代の女性教員たちからは、社会の規範に疑問を持つよう鼓舞されたことが思い出されます。また、威厳のある60代の教授からも、米文学史の凛とした授業を通して影響を受けました。このような多世代の多才な女性たちに囲まれて18歳から22歳までを過ごせたことが、自分自身が研究者になる方向に歩みを進めた重要な要素であったと考えています。女子大学では「常に女性が真ん中」です。しかし、私が大学生の頃の日本社会は、女性が今よりもずっと周縁に置かれていた時代です。当時は新聞に求人広告が男女別に掲載されていましたし、画廊などの女性の求人には「容姿端麗」といった条件が明記されていました。テレビのニュースは男性が読み、ニュースの解説や討論も男性のみ。報道

メディアに高齢の女性が登場することは、殆どありませんでした。そのような社会で成長したにもかかわらず、津田塾大学での4年間があったからこそ、アンコンシャス・バイアスから自身を解き放つことができたのだと思います。これは私にとっての重要な「女子大学効果」でした。

現在も女性はとりわけ政治・経済分野において十分に参画できていません。世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数で日本は146カ国中116位と低迷しています。女性も報道番組に登場するようになりましたが、圧倒的に若い世代の女性が中心で、高齢の女性が出演することは男性と比して今も少ないのが現状です。国会も、企業の役員も、男性ばかりの風景です。私は今も女子大学には女性をエンパワーする、特別な役割と使命があると考えています。

女子大学への逆風が年々強まっています。津田塾大学の未来のために、同窓生の皆様にとっての「女子大学効果」を具体的に教えていただければ幸いです。



まだ間に合う！ MCI予防！

英大22 楠山 栄子

英大22回生の楠山栄子です。現在は、流山市で市議会議員をしております。

この4月は統一地方選挙があり、私にとって4期目の改選となりました。私が住んでいる地域が高齢化しているせいもあり、なんと92歳を筆頭に、超超高齢化したチームでの戦いとなりました(笑)。果たして、最後までたどり着けるのかしら？なんて不安なスタートでしたが、山を越え谷を越え、最後は万歳三唱の中、「選挙のおかげで元気になった！」という声が多かったのは何よりでした。超超高齢社会の介護予防の選挙戦を実践した形になりました！(笑)



選挙前も選挙後も、コロナ前もコロナ後も、私の取り組みのひとつは、「高齢社会の認知症予防」です。今年1月、認知症の第一人者とされている朝田隆先生（筑波大学終養教授で東京医科歯科大学名誉教授）をお呼びして、スターズおたかの森ホールで認知症医療最前線の講演会を開催しました。定員500人のホールはほぼ満杯。認知症は高齢者みんなの課題であることが証明されまし

た。朝田先生のお話で、興味深い点をいくつかここにご紹介します。

・MCI（軽度認知症）の人は4年以内に5割が認知症へ進行するという専門機関の調査結果があります。残り5割は認知症へ進行しない、ということですね。予備軍から正常に戻る条件は、「運動習慣と好奇心の強さ」だそうです。

・アルツハイマー治療薬開発は、2021年28年ぶりにアメリカで成功。現状承認されていない日本でも、根本治療薬が2023年承認の可能性があるとのことです。

・認知症予防で重要なのは「人とのつながり」と「習慣化」！ ほめられる、ほめてあげる、で生きがいにつながる。また、年とともに「今さら頑張ろうという気になれない」と思いがちだが、煩わしいことも苦もなくて済む仕組みが脳にはある。習慣化づければ、難しいこともできるようになる。等々。

朝田先生のお話は、物忘れが多くなった高齢者の方々が聞くと、「まだ間に合う！ MCIの段階でぜひともくい止めたい」と元気になる講演だったと思います。



はじめてトルコを旅したのは、大学三年の夏休みでした。中近東のゼミをとり、卒論はトルコの都市問題をテーマに。そして卒業前にもう一度トルコを訪ねたとき、その後を変える出来事がありました。

イスパルタという町で小さな絨毯工房を見学したときのこと、スカーフをかぶった数人の女性に写真を撮ってもらったとき、通訳してくれた案内の男性には断ったのに、その男性がいなくなったとたん、「写真を撮って」とせがんできたのです。女ばかりになると態度が変わる。これを見て（ひょっとしたら）と思いました。イスラムの女性は神秘的、と思われがちでしたが、女のわたしなら素顔を見られ、本音をきけるかもしれない、そんな期待を抱いたのです。

その後、就職した会社を辞め、トルコの村で絨毯織りをしながら村人の暮らしを取材し、それをまとめた本で物書きとして歩みはじめました。ルポや紀行エッセイからはじめ、物語に挑むいまも、トルコやイスラム文化を書きたい気持ちは続いています。汲めども尽きぬ泉のように、書きたいテーマが出てくるのです。昨年は中世トルコの歴史物語「いのちの木のあるところ」を福音館書店から出版してもらいました。

この6月には「トルコのゼーラおばあさん、メッカへ行く」が、「たくさんのふしぎ傑作集」として福音館書店から再刊行されます。幼い娘と夏休みを過ごした村で、親しくなったゼーラさんが、メッカに巡礼に行ったお話です。

村の外にもめったに出ないゼーラさんが、どんな気持ちで巡礼に行ったのか、メッカでどんな体験をし、どんなことを感じたか、詳しく書いて書きました。イスラム女性の素顔や本音を知りたい、と学生時代に抱いた期待に少しは応えられたと思います。そして、本を読んだ子どもたちがゼーラさんを近しく感じて、イスラム世界に偏見を持たず、できれば親しみを覚えてもらえたら、と願っています。

この本は収益の一部を震災復興支援として、トルコ大使館に寄付することになりました。被災地となったトルコ南東部は、昨年秋に訪ねたばかり。被害のあまりの大きさに衝撃を受けました。復興には時間がかかることでしょう。笑顔で迎えてくれた人たちにまた笑顔が戻るよう、寄り添う気持ちを伝えたい、そんな思いです。

夏休みには代々木のモスクに隣接するユヌス・エムレ・トルコ文化センターで、絵を担当してくれた牡丹靖佳さんの複製原画とわたしの写真の展示会を開催し、子ども対象のトークイベントも予定しています。いずれも無料ですので、モスクの見学もかねて、足をお運びいただけたら嬉しいです。

福音館書店刊

[『トルコのゼーラおばあさん、メッカへ行く』展](#)
[子どもといっしょに 代々木でトルコの夏休み](#)

日時 7月22日(土)～8月27日(日) (金曜日休み)

会場 ユヌス・エムレ・トルコ文化センター2階

トークイベント (小学生対象 申し込みは福音館書店まで)

日時 7月30日(日)

会場 ユヌス・エムレ・トルコ文化センター地下ホール

作家。トルコなど中近東に関する著作『羊飼いの口笛が聴こえる』(朝日新聞社)『トルコ風の旅』(東京書籍)など。

『青いチューリップ』(講談社)で第38回日本児童文学者協会新人賞受賞後は児童書作家としても活躍。



新藤悦子さんの著書

[『いのちの木のあるところ』](#)
新藤悦子著 (福音館書店)

謎多きトルコの世界遺産「ディヴリイの大モスクと治癒院」をめぐる人々の歴史物語。佐竹美保さんの挿絵も美しい。

トルコ大使館・復興支援窓口
銀行名：三菱UFJ銀行
支店名：渋谷明治通支店 (470)
口座番号：(普通) 3195717
口座名：TURKISH EMBASSY

皆様こんにちは。種村千明（国大28）と申します。CHIKU というペンネームで切り絵作家として活動し、今年度の『Tsuda Today』では表紙絵を担当しています。2012年より船橋市内在住です。

私がコロナ禍を経て変わったことの一つは、自分の心身や日常への向き合い方です。

コロナ禍になって最初の頃は、不安はありながら在宅仕事のため、大きな変化は感じていなかったのですが、緊急事態宣言後は当時6歳と2歳だった子供の学校や保育園が閉鎖されたことで状況が一変しました。狭い家に家族で缶詰め状態の日々の中、制作が思うように進まない上に、刊行を予定していた書籍やその他の予定が見送られたりもして、鬱々とした気分が膨らんでいきました。

この時期は多くの方がそれぞれのやり方で気持ちを切り替えられていたと思います。私も臨床心理士のカウンセリングや、身体のメンテナンス、引越しやアトリエ整理といったことをはじめました。どれも先延ばしにしていたことで、自分の心身やこれまでの暮らし方を点検する作業でした。

そうこうしているうち、自分の足元にある景色や身近な物事への見え方が、僅かながら変化してきたように思います。街中の花や植物が以前より目に留まるようになったり、近隣に海や公園など良いスポットがたくさんあることに改めて気付くようになったり、と日常の解像度が高くなるような感覚が増えました。自分の体調や心の動きについても、前より敏感に意識するようになってきました。

切り絵についても、具体的な変化はわかりませんが、きっと良い影響があると思います。活動のあり方については優先順位を考えるようになりました。絵本やグッズ制作など以前からやりたいと思っていたことが頭の片隅にあるのに、年月がどんどん過ぎていきます。自分が主体的に取り組めること、心が動くことを少しずつ試していきたいです。

私にとってのコロナ禍は、こんなふう長い目で見て大切な、土台部分を見直すきっかけとなった期間でもありました。これからも定期的に続けていければと思っています。

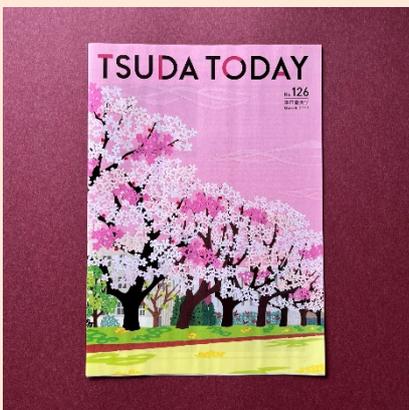
切り絵作家。色紙を中心とした素材を切り貼りして作品を制作。各媒体や製品のイラストレーション、展示、ワークショップ等を中心に活動。近著に『学校図書館を彩る切り絵かざり2』

（少年写真新聞社）。

<https://kirieasobi.com>



CHIKU : 種村千明さんの作品



TsudaToday 126号



「光を浴びて」



津田塾大学ポストカードセット
大学構内の生協で販売されています



私の耳は貝の殻 海の響をなつかしむ

Mon oreille est un coquillage.
Qui aime le bruit de la mer.

ジャン・コクトー作 堀口大学訳

子供の頃に覚えた詩だ。

そのコクトーが漁夫の守護神を祀った古い教会の内部を修復した写真を見て、本物を見たいと旅に出た。ニースから電車で10分の無人駅ヴィルフランシュ=シュル=メールに降りたのは30年前のこと。マチスがヴァンスのロザリオ礼拝堂内部を修復し、ピカソがすぐに真似てヴァロリスで教会を修復、コクトーはピカソを真似てサン・ピエール礼拝堂の内部を修復した。芸は真似るもの、盗むもの。

1950年代のコートダジュールでは芸術家の教会内部の修復が流行ったそうだ。コクトーが作品完成まで4ヶ月滞在したホテルのコクトー専用の部屋にも泊まれた。2階の角部屋で角の両面に大きな窓があり、地中海を背景に件の教会を見下ろせる。潮騒を聴き、漁火を眺めているとベッドが船になり海に漕ぎ出ているように錯覚してしまう。そこにコクトーの絵が飾られ、食器にもコクトーの絵が焼き付けてある。目の前は海辺、横の広場では骨董市が催される。以来私のコートダジュールの定宿はこのホテルになった。



数年後、友人に誘われて内房海岸でコートダジュールの漁村に似た地形でコクトーの泊まった部屋にそっくりなマンションを衝動買いした。数年前に夫と長男と共にコクトーの泊まった部屋に滞在したが、本当にそっくりだと彼等も驚いていた。

内房の漁村は2019年の台風とコロナで過疎化が加速し、無人電車が止まる無人駅になり、ますますコートダジュールの無人駅に似てきた。



コートダジュールには美味しいレストランやギリシャ・ローマ文化に始まり、多様な民族の残っていた城壁、教会、街並み等の文化遺跡がある。別名<美の回廊>とも言われるように、マチス、ピカソ、シャガール、ルノアール、ジャン・コクトー等のアトリエやミュージアムがある。

内房海岸の魅力は、海岸が北西に面しているので、優しく美しい光線で海を眺められることであろう。目前に富士山が見えること、魚だけでなく野菜が美味しいこと。群生する水仙が風にそよぐ楚々とした風情だろうか。

ヴィルフランシュ=シュル=メールには、ミモザの花の季節に訪れていただきたい。



渡辺節子の旅のスケッチ

1998年の私のバイリンガル旅紀行

<https://www.shejapan.com/sketch/tabi/index.html>

Japan Thru Young Eyes

1990年代に大学生を指導して作らせた日本文化紹介バイリンガルサイト

<https://www.shejapan.com/jtyeholder/jtye/jjtye1.html>

2022年2月4日、如水会館にて「2022年度総会・ピアノと馬頭琴とピアノの会」を開催しました。
お寄せいただいた感想をご紹介します。

2022年総会とイベントに出席させていただいて

英大10 山下 順子

千葉支部の皆さま、初めまして。私は千葉県の住民ではないので、最初参加を躊躇しておりましたが、座席に空きがあるからとのお誘いに、思い切って応募させていただきました。当日は、高橋学長と飯野同窓会会長もお見えになられて、立派な総会でした。渡辺支部長がご挨拶の中で、千葉支部では昨年から会報を電子化したとのご報告があり、21世紀に相応しい英断と感心いたしました。如水会館のきれいな会場で、美味しい昼食付の総会で、珍しいモンゴルの馬頭琴の演奏、この楽器にまつわる民話「スーホの白い馬」の朗読、ドイツで研鑽を積まれたピアニストによる流麗な演奏と、とても楽しいひと時を過ごさせていただきました。心からお礼申し上げます。

その上、高橋学長から、最近出版なさったご著書「津田海子」を参加者全員、有難く頂戴し、恐縮いたしました。本書は、梅子の出生から年代順にその足跡を、当時のアメリカと日本の社会事情、特に女性の地位に触れながら丁寧に解説されています。最後部には分かり易い年譜がついています。

梅子は6歳で官費留学生としてアメリカに渡り、11年後に帰国。華族女学校で教職につくが、再び留学を望み、プリンマー大学にて自然科学分野を研究。

3年後帰国して、休職していた華族女学校に戻りますが、万国婦人クラブ連合大会に派遣されたのを機に、3度目の海外研修で1年間、アメリカとイギリスに滞在、色々な大学を見学して、私塾創設の準備を進めます。帰国後、華族女学校を辞任し、1900年9月に東京麹町に女子英学塾を創立、梅子35歳。

現在、女性がどの分野でも自由に勉強することが出来、経済的に自立することが可能なのは、梅子先生をはじめ多くの女性活動家のお陰だと本書を読んで強く感じました。梅子先生は、プリンマー大学で研究を続けるよう勧められたのを断って帰国され、世間の批判を退けて、国家への恩返しでもある、官立の華族女学校の教授職を辞任されましたが、それは、ご自分の「果たすべき義務」は、「女性が男性と対等な自立した個人となり、広く世界で活躍する市民へと成長する」(P.184)ための高等教育を提供する私塾設立であるとの確信がであったからでしょう。「人生を無為にせず、広く社会に働きかけることのできる有為な人になれ」(P.202)という梅子先生のお言葉は反省を込めて心に響きました。高橋先生、貴重なご本をご惠贈にあずかり厚くお礼申し上げます。

千葉支部総会&コンサートに茨城県から出参加させていただきました

ありがとうございました

英大31 鈴木 眞理

コロナの流行が始まって以降、公共の乗り物は避け、外食しない生活を続けていた私には、「東京まで出かけて、大勢での会食」に申し込むことは高いハードルでしたが、6月のzoom講演会に参加し、千葉支部の細やかに配慮された企画の素晴らしさに感嘆していたので、「参加したい!」の気持ちが勝って、申し込みました。参加が決まって尚、大丈夫かしらと揺らぐ気持ちがありましたが、「千葉支部以外から参加の皆様へ」として、会場入室までの手順や持ち物、プログラム詳細、座席表、アルママータの楽譜を送っていただき、それらを読むと、「待っていますよ」と言ってもらえているようで励まされました。

会が始まり、飯野同窓会会長のご挨拶の中での「同窓会はロールモデルに出会う機会です」という優しく力強い言葉が胸にすーっと入り、そのまま「今日は交流の日!」と思い定まっていました。(あれ?家を出る時は、外食解禁とはいえ、黙食でいよう、と決めていたのに・・・)

テーブルを囲んでの同席の方とおしゃべりも弾みました。持ち物として「手製名刺を携帯なさると周囲の方

との自己紹介時に便利です」の勧めに従って、携わっているボランティアの会の名前をメモした名刺を持参したことは助けになりました。「これはどういう会ですか?」と活動についてじっくり聞いてもらうにとどまらず、アイデアや応援の言葉もいただきました。(「サラームの会」という伝統刺繍を通してパレスチナ女性を支援している活動です。)

ピアノと馬頭琴と朗読の会も圧巻でした。「スーホの白い馬」の朗読が馬頭琴の演奏で聞けるとは!あとで近くで見ることでできた馬頭琴の馬の彫刻と、弓にゾクゾクしました。なかなか聴くことのできないホーミーですし、馬頭琴は初めてでしたが、ウルグンさんの故郷、モンゴルがいつか行ってみたい場所になりました。

こうして、あの日のことをふり返り、おおらかな先輩、爽やかな後輩と親しく言葉を交わせたことや、「名刺持参アイデア」、「ペーパーレスの実践」、「ネット活用の先進的な運営」など、盗みたいアイデアや做りたい経験も出来た幸いをあらためてかみしめています。

津田梅子と言えば、私達の世代では小学国語教科書に出てきた人物であり、今で言えばお札になる人だろうか？高橋学長のジュニア新書は中高生向けにわかり易く書かれているが、その密度は濃く大人が読んでも面白い。それでも不足という方は同著者の「津田梅子の社会史」玉川大学出版部を読んでほしい。

教科書に書かれた梅子像は吉川利一「津田梅子」(1930年)に基づくと思われる。その後津田塾大学の屋根裏部屋から手紙の束が発見され、それに基づく伝記が何冊か出版された。その書簡はホストファミリーのランマン夫妻に宛てたもので、読者が限定されていてリアルタイムの事象が綴られている。ランマン夫人と梅子は実の親子以上の絆で結ばれていて、夫人の梅子への助言は的確かつ親身なものであったと思う。

梅子が帰国した明治15年の日本は、女性の地位が今よりずっと低かった。11年間もの国費留学生としての渡米ゆえ、梅子は国に重用されることを期待していた。しかし、そのようなポストは皆無で、その準備も検討さえされていないと分かり彼女は深く失望する。

梅子の手紙には、彼女の率直な心情が述べられているし、日本女性の立場の叙述もリアルである。ホストファミリーの元で勉学に励み、梅子は高卒、捨松は大卒の資格まで得て帰国した。だが、現実には「良い家に嫁ぐという道」しか用意されておらず、いくら英語の力を発揮しようと思っても仕事をさせてはもらえなかった。

Life is worth-less without work.は梅子の嘆きの言葉である。

捨松とは、梅子と共に留学した会津藩氏の娘、山川捨松である。やがて彼女は、彼女なりの野心から大山巖夫人となる。

梅子は伊藤博文の援助で華族女学校に就任し、プリンマー大学に国費で入学する。帰国後の奮闘については、本書を読んでほしい。

教科書には「梅子が生まれた時、また女であることに、仙はひどくがっかりした。」と書かれていた。筆者は1959年生まれであるが、恥ずかしながら当然と考えていたように思う。当時、男女差別や女性蔑視への意識は、今よりずっと低かった。「女のくせに」とよく言われ、技術科は男子、家庭科は女子の必修科目だった。

一生誰かに従い続ける人生ほど、無意味なものはない。本書を読むと、当時の女性の地位の低さがよくわかる。英語で書かれた彼女の手紙は、女性史研究に資するものであり、素晴らしい文学作品ではないかと筆者は推測する。

梅子は研究熱心で女子教育に情熱的であり、好奇心も旺盛だった。ラドクリフ女子大学を訪問し、感銘を得て帰国する。帰国後は、女子英学塾で学んだ者達が高等女学校の教員になれるように奮闘した。英語教師となった塾生達（全ての女性教師）に、今も、光をふりそそいでくれている。

2022年度会計報告

収入の部		支出の部	
2021年度繰越金	¥287,625	会報11号印刷	¥53,674
		会報郵送費用	¥177,837
		住所印作成	¥4,440
同窓会本部補助金	¥234,650	Zoom講演会経費	¥57,391
助成金	¥100,000	講師講演料等諸経費	¥100,000
		国連UNHCRに寄付	
2022/6/23 Zoom講演会参加費	¥99,000	2023/2/4 総会経費	¥214,000
¥1,000×99		如水会館支払	¥165,000
		出演者謝礼等	
講演会参加者より寄付	¥21,000	市川文化会館使用料	¥61,710
		2023/10/7総会実施予定分	
2023/2/4 総会会費	¥210,000	会議費・雑費	¥18,887
¥7,000×30		役員活動交通費	¥18,000
利子	¥1	2023年度へ繰越	¥81,337
計	¥952,276	計	¥952,276

新型コロナウイルス感染症5類移行で外出する機会が増える中、アート好きな方はこれから美術館巡りを楽しみにされているのではないのでしょうか。今回地元千葉にあり、よく通っている『千葉市美術館』をご紹介します。（以下美術館の概要は[千葉市美術館ホームページ](#)の記述を参考とさせていただきます）。

千葉市美術館は、1995年に千葉市中央区役所との複合施設として開館、2020年7月に建物をすべて美術館としてリニューアル後は、企画展がない期間も常設展示や参加・体験型のアーティストプロジェクト等アートを身近に楽しめる施設になっています。

美術館のコレクションの収集方針は、「近世から近代の日本絵画と版画」、「1945年以降の現代美術」、「千葉市を中心とした房総ゆかりの作品」で、私は当初興味のある企画展に訪れる程度でしたが、素晴らしい日本絵画に出会い、何度か通う中で興味のなかった現代美術も楽しむようになりました。

外観は旧川崎銀行千葉支店の古い建物を一部利用したもので、1階には千葉市指定有形文化財である「さや堂ホール」があり、イベントがない日は趣のある空間で過ごすこともできます。お買い物のついでや気分転換のお散歩がてら、少し足を伸ばして、地元の美術館に立ち寄ってみませんか？



千葉市美術館1階 さや堂ホール

地元の文化財

日本福音ルーテル市川教会  いつも新しい流れがある 市川

1995年築。ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(1880~1964 日本で数多くの西洋建築を手がけた米国生まれの建築家)の晩年の作品の一つ。2008年 国登録有形文化財に登録。

京成国府台駅から徒歩5分ほどの、真間川に面した閑静な住宅街にあります。周囲の景観に馴染んだ素敵な教会です。事前に連絡すれば内部の見学も可能。

<http://jelc-ichikawa.la.cocacn.jp/>

<https://www.facebook.com/jelc.ichikawa>



(国大20 成田百合子)

千葉市美術館所蔵品の一例



歌川広重(1797-1858)
「名所江戸百景
亀戸天神境内」



恩地 孝四郎(1891-1955)
「音楽作品による抒情
No.2. ポロディン”スケル
ツォ」

編集後記

多種多様な文化、立場、職業の方々が快く率直な文章を書いてくださったことに千葉支部幹事一同お礼申し上げます。違った視点で物を見る良い機会になりました。

『みんな違ってみんなよい。』と世界中の人々が思えば、戦争はなくなるでしょうに。お忙しい中のご寄稿に感謝します。(SW)

今回より2023年3月卒業の新会員にも配信しております。本会報をご覧になって同窓生の多様な活動を知って下さると嬉しいです。(MH)

今回の会報作成でも、さまざまな発見があり勉強になりました。自分のこと、地域のこと、世界のこと。日々好奇心旺盛に過ごしていきたいです。(YN)

(資料) 2022年度 千葉支部活動報告

2022/6/1 会報11号発行（1500部印刷。紙の会報はこれで最後）
同時にWEB会報も発行し、電子化に移行。

6/2 Newsletter Vol.1をメールリストで送信。

6/13 Newsletter Vol.2

6/21 Newsletter Vol.3

6/23 Zoom講演会開催。日本人として今、世界平和にどう貢献できるか？
～ロシアのウクライナ侵攻からみえてきたもの～

講師：千田悦子さん(国大13) 元国連難民高等弁務官事務所恒久的問題解決担当官
参加者117名

7/19 Newsletter Vol.4

11/23 Newsletter Vol.5

2023/2/4 如水会館「ジュピター」にて
2022年度総会・ピアノと馬頭琴と朗読の会開催。
参加者32名

3/5 Newsletter Vol.6

総会・ピアノと馬頭琴と朗読の会出席者の声（抜粋）

千葉支部総会にお招きいただきまして、ありがとうございました。ご一緒に素晴らしい経験をさせていただき、深く感謝しております。馬頭琴演奏もピアノも、そして朗読も、すべて心に響くものでした（「心」とは？というお話もありましたね！）。とてもとても楽しく、思い出に残る会でした。帰宅してすぐに家族に私自身の感動を伝えました！

（飯野正子先生）

素晴らしい音楽とともに、同窓生の皆様との充実したひと時をいただき、心より感謝申し上げます。（高橋裕子先生）

素敵な会をありがとうございました。

音楽も会場の雰囲気もどれも素敵でした。馬頭琴の音色に感動いたしました。（数20 長岡 由紀子）

ご盛会、おめでとうございます。久々にお目にかかれ、先輩方と交流でき、音楽に満たされ、楽しいひとときでした。（国27 佐藤 由紀）

素敵な会にお誘いいただきまして、ありがとうございました！

とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。（数41 荒谷 和子）

素晴らしい総会を開いていただきありがとうございました。

演奏もお料理も素晴らしく 楽しい時を過ごさせていただきました。

（国2 丸杉 明子）

大変楽しい午後でした。馬頭琴、ピアノ、朗読と盛りだくさんのおもてなしに時のたつのを忘れるほどでした。

これからもご一緒に有意義な活動の輪が広がりますようよろしくお願いいたします。（英13 鷺見 八重子）



2022/2/4 出演者。左より、
吉村直美さん(ピアノ)
ウルグンさん(馬頭琴)
郷圭子さん(朗読・司会)



出演者を囲んで